夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより　第5号
令和4年10月21日

スポ大・コトモノ・スポフェス・10周年 大成功！

コロナの波は相変わらず心配な状況が続いています。それでも、今年度はいろいろな対策を講じながら行事を再開しています。夏休み明けてからの約2か月ですが、その間にスポーツ大会、コトモノマーケット秋、スポーツフェスティバル、10周年記念式典と行事が盛りだくさんでした。10周年記念式典に際しましては、米川 PTA 会長をはじめ、PTA 役員の方々には細かい部分まで、ご配慮ご協力頂き、温か味のある大変良い式典になったことを感謝いたします。誠にありがとうございました。

台風やコロナの影響で中止が続いていたスポーツ大会が、3年ぶりに開催されました。誰一人スポーツ大会の経験者がいない状況で、やや緊張してのスタートでしたが、始まってみれば闘志むき出しだったり相手を気遣うフェアプレーだったりという様子でした。ソフトボールは負けそうでヒヤヒヤしたところからの大逆転で見事優勝。サッカーは初戦勝って勢い付いたところで逆転負けとなり悶々としていました。校内でのスポーツフェスティバルは2年ぶりの開催となり、こちらも大盛り上がりでした。学年縦割りのクラス対抗で徒競走、大縄跳び、デカパン競争、そしてリレー等を実施しました。結果は D 組が優勝となりましたが、生徒それぞれが種目に精一杯力を出し切ったり放送や用具等の係の仕事を頑張ったりする姿が見られ、見ていて清々しい気持ちになる行事となりました。スポーツ大会でもスポーツフェスティバルでも、勝者がいれば敗者もいます。自分なりのプレーや走りができた人もいれば納得いかない結果になった人もいるかと思います。どちらの大会においても、友達とハイタッチをして喜びを爆発させる姿や落ち込んだりイライラしている友達に優しく声をかけたり静かに見守ったりする姿が見られました。

行事の時には普段味わうことのない色々な感情が湧き出ることが多くあります。その感情を自分でどう処理するかがとても大切な学びではないかと思います。喜びを満面の笑顔で表すのか、静かにガッツポーズをするのか、困っている友達に対して、手を差し伸べて助けるのか、大丈夫？と声をかけるのか、優しく見守るのか、正直、正解はないと思います。それぞれが自分らしさを出しつつ、周りと良い関係を作れるようにするためには、自分がどう行動すべきかを考えるということが、今後、自立を目指す上で、何より大事なことではないかと思います。

10周年記念式典では、4名の卒業生が開校からの歴史を振り返って話をしてくださいました。在校生への一言では、悔いのないように学校生活を楽しく！挨拶を身につけて！得意なこと好きなことを見つけて頑張れ！学生時代にできることはやっておいたほうが良い！というものでした。どれも「うんうん」と頷ける素晴らしいメッセージでした。このメッセージを感じて、自分で考えて、行動できるようにしていきたいですね。

校長　三宅 健二朗